

山梨県言語聴覚士会

vol. 23

NEWS

《目次》

P 1…会長挨拶

P 2…総会報告

P 3…組織編成・新役員

P 4…役員挨拶

P 6…各局・部の紹介

P 7…診療報酬改定について

P 8…学術部講演会参加報告

P 9…病院紹介・ふるさと紹介

P 10…ちょっといい話

会員 PICK UP

P 11…病院・施設一覧

新年度の挨拶

言語聴覚士として新たな生活を始められた新人の方、他県より移動されて来た先生方、ようこそ山梨県へ、そして山梨県言語聴覚士会への入会ありがとうございます。

本県は言語聴覚士の養成校が存在しないため、各施設は言語聴覚士の採用に奔走している状況が続く中、本年も10余名が入会された事を嬉しく感じます。山梨県言語聴覚士会は皆様を歓迎するとともに、皆様の成長をサポートしていきたいと思っております。

さて、5月11日に開催されました平成24年度定期総会においては全ての議案に対して承認をいただきありがとうございます。今年は2年任期での理事の再編成の下、新たな理事会による活動を開始しました。

会長就任時の挨拶（ニュースVol.18）には「継承」「継続」「発展」をキーワードに県士会活動を展開する意向を述べました。この2年間、理事会は回数を増やし、広報活動ではホームページのリニューアルやニュースの増刊、学術活動は従来の講演会や症例検討会に加え新人教育の場を提供、職能活動では関連他団体との連携や一大事業であった「山梨県介護予防自主グループ構築事業」を展開してきました。まさに、諸先輩方から「継承」した事業を、120余名の会員全員の手作りというコンセプトを「継続」し、各部署の事業を「発展」させた2年間であったと自負しております。これらの県士会活動に協力いただいた理事の方、会員皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

新理事会では、今期、これまでの充実した諸活動を幅広く展開するために、さらなる3つの「連携」を重視し活動を行っていきます。まずは理事同士の連携を深め、透明性のある事業をフットワーク良く展開していきます。次に理事会と会員、また会員相互の連携です。県士会活動への積極的な会員参加を期待し、県士会の理念である「会員全員の手作り会」の継続を目指します。3つ目の関連諸団体との連携においては、山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会とは既に昨年度の事業を通じて、役員間での意見交換会が開催され、三士会合同の学術大会の開催や行政への要望書の作成などについて合意がなされています。今後も共通の意識・目的を持って連携を深め、継続した意見交換会により、県内の医療・福祉・介護の向上に貢献できる他県でも例のない活動が展開できると確信しております。日本言語聴覚士協会との連携では、協会事業として重要な位置づけである全国研修会を7月29日（日）に甲府市で開催します。当士会のこれまでの活動におけるノウハウを活かし、全国研修会の成功に向けて取り組みたいと思います。また、県の事業への参画や、その他の関連団体や家族会との連携に関しても担当理事を配置し活動を展開していきます。

14年目を迎えた当士会の活動は成熟し、さらに発展を続けております。このように成長が続けられるのも会員皆様の努力の賜物であると理解しております。今年度も県士会活動にご理解の上、ご協力・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

会長 内山 量史



平成 24 年度山梨県言語聴覚士会 総会報告

春日居リハビリテーション病院 河西 祐子

平成 24 年度山梨県言語聴覚士会定期総会が、平成 24 年 5 月 11 日(金)午後 6 時 30 分より、大木記念ホールにおいて開催された。

司会の赤池三紀子副会長より、会員総数は 128 名(5 月 10 日現在)で、出席者総数 119 名(会場出席者 87 名、委任状 32 名)であり、定数を満たし、総会は成立することが報告された。

議長に小澤美和子先生が選出され、議案の審議に入った。

第 1 号議案の平成 23 年度活動報告に関する件では、事務局、学術局、広報局、職能局の各局長より活動内容が報告された。また、学術大会実行委員長より、第 4 回学術大会の報告がなされた。続いて、第 2 号議案の平成 23 年度会計報告に関する件では、財務部岡那奈子副部長より、会計報告がなされた。第 1 号議案、第 2 号議案共に、採決の結果、賛成多数で承認された。

その後、第 3 号議案の役員承認、第 4 号議案の組織の変更に関する件では、新役員及び組織編成について内山量史会長より一括して説明がなされ、両議案共に賛成多数で承認された。

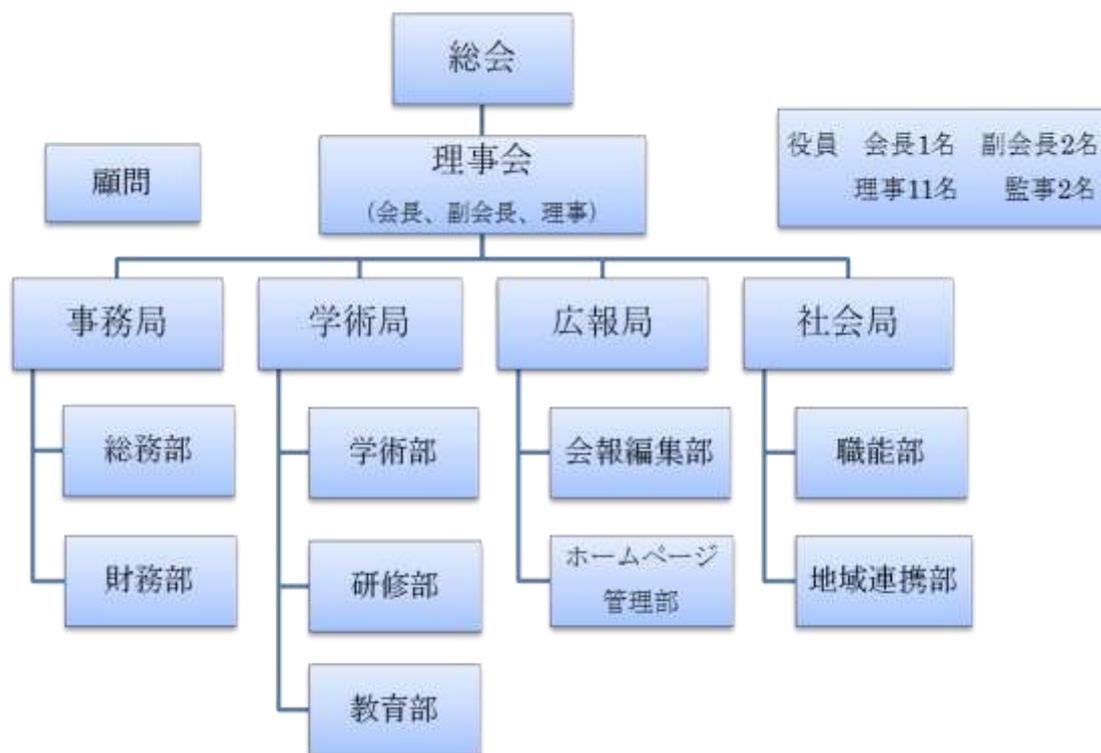
第 5 号議案の平成 24 年度活動計画案に関する件では、事務局、学術局、広報局、社会局の各局長より、各部の部長、副部長、部員の紹介、並びに活動計画案について説明された。また、第 5 回学術大会実行委員長より、大会長の紹介、開催日について報告された。第 6 号議案では、平成 24 年度の予算案が各局長、学術大会実行委員長より提出された。第 5 号議案、第 6 号議案共に賛成多数で承認された。

以上、理事会で提案した議案はすべて承認され、議長の職務は終了となった。

最後に、内山会長より、会員相互及び県内他団体との連携、一般社団法人 日本言語聴覚士協会との連携を進め、当県士会をさらに発展させていきたい旨の挨拶があり、総会は閉会した。



<山梨県言語聴覚士会 組織図>



<平成24年度 山梨県言語聴覚士会 役員>

会 長	内山 量史	春日居リハビリテーション病院
副会長	赤池 三紀子	湯村温泉病院
副会長	中村 晴江	甲府城南病院
理 事	赤池 洋	山梨赤十字病院
	石原 徳子	甲州リハビリテーション病院
	和泉 裕二	甲府共立病院
	伊藤 理恵子	甲府城南病院
	河西 祐子	春日居リハビリテーション病院
	金子 正子	今村耳鼻咽喉科めまい・難聴クリニック
	小池 京子	山梨リハビリテーション病院
	高橋 正和	石和温泉病院
	藤巻 千春	竜王リハビリテーション病院
	望月 真由美	石和共立病院
	大和 さわか	健康科学大学リハビリテーションクリニック
		以上 14 名
監 事	深沢 有里	石和温泉病院
	保坂 みさ	あけぼの支援学校
顧 問	保坂 敏男	山梨リハビリテーション病院

第5回学術大会

大会長	望月 真由美	石和共立病院
実行委員長	河西 祐子	春日居リハビリテーション病院

平成24年度 役員挨拶

新年度にあたり、副会長、理事、顧問からご挨拶をいただきました。

副会長

赤池 三紀子

湯村温泉病院

副会長の席で会長を補佐して13年、この間言語聴覚士を取り巻く環境はめざましい変化を遂げましたが、果たして自分は？と毎年この時期は新人に刺激され振り返ってしまいます。何年経ってもこの治療で十分に応えられているという確信を持ってないことも言語聴覚領域は発展しつつある魅力的な学問と捉えなおし、目の前の患者さんに真摯に向かい合うつもりです。今年度も会長を中心に県士会を更に身近なものにしていきたいと思えます。よろしくお願い申し上げます。

副会長

中村 晴江

甲府城南病院

今期も副会長・学術局長として引き続き活動することになりました。初めて副会長に就任してから2年。学術局員や会員の皆さまのご協力を得て、新卒者研修会・SLTA実技研修会など新たな研修会を開催することができました。今年度は更に学術局各部の活動の充実を図り、より充実した研修の場の提供に努めたいと思います。内山会長の下、微力ですが、皆さまと協力し県士会活動の更なる発展のお役に立ちたいと考えております。皆さまのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

理事

赤池 洋

山梨赤十字病院

今年度より広報局のホームページ管理部を担当させていただくことになりました。山梨県言語聴覚士会の活動を会員の皆様や県内外の多くの方々に注目していただけるよう努めていきたいと考えております。今回、初めて理事という立場で働かせていただきますが、県士会活動に少しでも新しい風を吹き込み、活動がよりパワーアップできるよう積極的に取り組んでいきたいと思えます。宜しくお願い致します。

理事

石原 徳子

甲州リハビリテーション病院

今年度は広報局長をさせて頂くことになりました。局長という役割に押しつぶされそうですが、二人の部長と部員の力を借りて『新しい情報を提供できる・会員に身近な部局』を作っていきたいと思えます。新年の目標として、新聞の連載小説を毎朝読むことを決めました。今のところ達成できていますが、新体制が落ち着く頃が危険な気がしています。朝の“あと5分”に負けないように頑張ります！

理事

和泉 裕二

甲府共立病院

言語聴覚士の資格を取得して8年目を迎えました。石和共立病院で回復期リハ棟に2年間、甲府共立病院で急性期医療に5年間携わってきました。平成24年度より理事という大役を引き受けさせていただきます。これまで多くの先生方が築かれてきた言語聴覚士の臨床における活躍・学習・啓蒙等の活動を先輩理事をはじめ、会員の皆さまの力でより一層輝かせる事が出来るよう私自身も力を尽くして行きたいと思えます。

理事

伊藤 理恵子

甲府城南病院

今年度から県士会の役員となり、新設された学術局の教育部を担当することになりました。教育部では新卒者研修の企画・運営を行います。ひとつでも多くのことを伝え、言語聴覚士としてのステップアップに繋がるようお手伝いをしていきたいと思えます。私自身まだまだ経験が少ないですが、「一隅を照らす」ことができるよう、役員として県士会を盛り上げていきたいと思えますので、よろしくお願い致します。

理事**河西 祐子**

春日居リハビリテーション病院

今年度は新しい理事が加わり、これまで以上に活気のある理事会になると思います。充実した県士会活動が展開できるよう、内山会長の下、皆で話し合い知恵を出し合っていきたいと思います。総務部では、ホームページを活用した理事会報告や会員の皆さんへの各種情報提供など、もう少し迅速に対応できるようにしていきたいと考えています。今年度も宜しく願いいたします。

理事**小池 京子**

山梨リハビリテーション病院

今年度より、財務部の部長を務めさせていただくことになりました。山梨に越してきて、丸4年。県士会の活動にはあまり参加できていませんでした。このような役を引き受けてしまいましたが、家では家計簿もつけられず、常にドンブリ勘定の私に務まるのか大変不安があります。至らない点も多いと思いますが、職務を全うできるようにがんばりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

理事**藤巻 千春**

竜王リハビリテーション病院

理事の仕事をして頂くようになり、他の病院の先生方とお話できる時間が本当に幸せです。まだまだ知識も技術も不十分ですが、先輩方からの指導を頂きながら、新人の皆さんとも同じ気持ちで頑張っていきます。杖をついて歩いているので・・・多少気を使わせてしまうかもしれませんが、足以外はものすご〜く!!!元気ですので♪ご安心くださいね。

理事**大和 さわか**

健康科学大学

リハビリテーションクリニック

今年度から理事という大役を務めさせて頂くことになりました。研修部を担当させて頂きます。先輩方のご指導を頂きながら、参加される皆様にとって少しでも有益な研修会になるよう研修部一同、企画・運営に努力していきたいです。多くの会員の皆様の参加があってこそその研修会ですので、ぜひ研修会に参加して頂き、ご意見を頂ければと思います。よろしくお願い致します。

理事**金子 正子**

今村耳鼻咽喉科

めまい・難聴クリニック

今年度も理事として県士会に参加させていただくことになりました。小児の言語聴覚士へのニーズは高く、そのニーズに応え、役割を果たせるような活動を計画していきたいと考えています。県士会の中でも成人分野の皆様にも小児分野についてご理解いただけるように努めていきたいです。どうぞご協力よろしくお願い致します。

理事**高橋 正和**

石和温泉病院

臨床経験9年目、臨床業務は回復期リハ病棟を中心に携わっています。今年度より理事を務めさせて頂きます。また、今年度も会報編集部で県士会 NEWS を担当させて頂きます。毎号、皆様から期待感を持って頂ける様に、旬の情報や役立つ情報をお届けします。魅力的な県士会 NEWS になるように精進していきますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

理事**望月 真由美**

石和共立病院

今年度も引き続き理事を務めさせて頂きます。今年度は、若い理事の方々が増え、新しいパワーを発揮していただく事で、さらに飛躍・発展した県士会になるのではないかと期待をしております。私が持っている「おばさんパワー」は微力(?)ではありますが、活気に満ちた県士会活動ができるようお手伝いできればと思っております。宜しく願いいたします。

顧問**保坂 敏男**

山梨リハビリテーション病院

3.11 東日本大震災を経て、日常の風景が変わったことと思います。今まで見ていたもの、感じていたもの、既存の世界が如何に脆いものであったか、有効性を追求してきた姿勢が如何に無力であったか、思い知らされた感じがします。その中で人と人との関係性の大切さにあらためて気付かされました。我々の仕事のコミュニケーション支援は、関係性そのものとも言えます。既存の枠組みに捕らわれず原点に戻り、関係性を見出す観察の眼を養って下さい。

各局・部の紹介

事務局 ≪局長≫ 河西 祐子（春日居リハビリテーション病院）

＜総務部＞ 部長：河西 祐子（春日居リハビリテーション病院）

＜財務部＞ 部長：小池 京子（山梨リハビリテーション病院）

総務部では定期総会や理事会の開催・各部局や他団体からの情報発信・会員情報管理を、財務部では会費の徴収、及び財務管理を行なっています。今年度から新メンバーとなり、気持ちを新たに取組んでいきたいと思っております。県士会の活動がスムーズに行なえますよう、会員異動届の提出、会費の納入にご協力をお願い致します。

学術局 ≪局長≫ 中村 晴江（甲府城南病院）

＜学術部＞ 部長：佐々木 蘭子（春日居リハビリテーション病院）

＜研修部＞ 部長：大和 さわか（健康科学大学リハビリテーションクリニック）

＜教育部＞ 部長：伊藤 理恵子（甲府城南病院）

学術局では本年度、「教育部（新入会員研修会担当）」を新設し、「学術部」「研修部」と合わせて3部体制になりました。臨床での成果の発表や報告、日本言語聴覚士協会の生涯学習プログラムに沿った研修の場の提供等を行ない、「若い世代から熟練世代まで会員が協同して、『山梨の言語療法の質』を常に高めることを目指して行く…」そんな県士会を目指し、学術活動を展開したいと考えています。本年度もよろしくお願い致します。

社会局 ≪局長≫ 赤池 三紀子（湯村温泉病院）

＜職能部＞ 部長：藤巻 千春（竜王リハビリテーション病院）

＜地域連携部＞ 部長：望月 真由美（石和共立病院）

今年度新設された社会局は、2つの部で構成されます。職能部は、前身の職能局の職務を引き継ぎ、言語聴覚士協会や他団体との連携、臨床業務に関する情報収集・調査を行ないます。新たな地域連携部では、医療保険と介護保険領域の情報収集を通して言語聴覚士の専門的サービスの展開を目指すと共に、地域における小児を含めた当事者団体との情報交換などにより、連携や交流を深めたいと考えています。

広報局 ≪局長≫ 石原 徳子（甲州リハビリテーション病院）

＜会報編集部＞ 部長：高橋 正和（石和温泉病院）

＜ホームページ管理部＞ 部長：赤池 洋（山梨赤十字病院）

広報局では、会員だけではなく他団体や一般の方々にも「山梨県言語聴覚士会」を知って頂くために、情報発信をしていきます。会報編集部では『山梨県言語聴覚士会 NEWS』を年3回発行予定です。ホームページ管理部ではNEWSと連動し、会員からの推薦図書や関連団体からのお知らせも更新していく予定です。会員の皆さまの引き続きのご協力をお願い致します。

2012 年は医療・介護同時改訂の年である

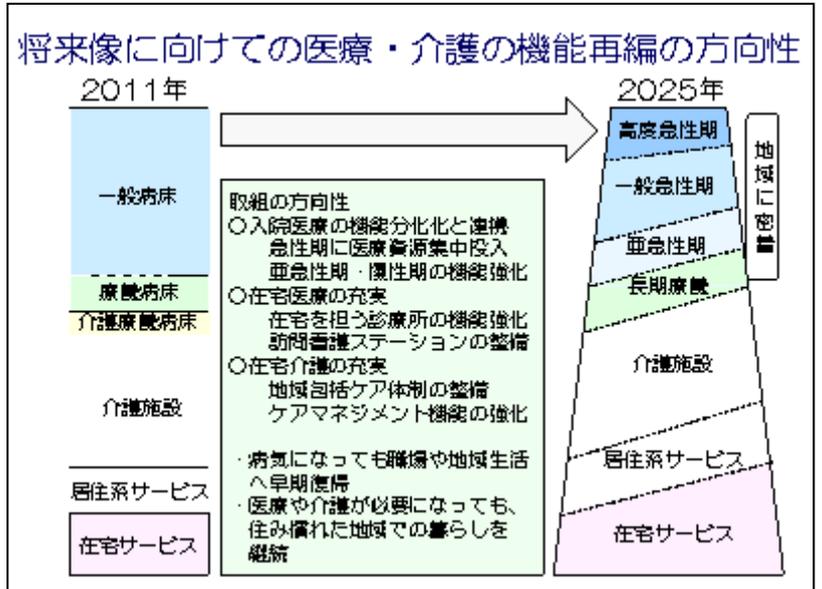
山梨リハビリテーション病院 保坂 敏男

2012 年 4 月は医療・介護同時改定の年でありました。ここでは、診療報酬改定について述べてみたいと思います。

「2025 年社会保障改革シナリオ」によると、2025 年に向けて医療を機能面から再編成をすることがうたわれています（右図参照）。

まず、自分の属する施設がどのポジションにあるのか、今後どのような活動が求められているのか確認しておきましょう。

さて、リハビリ関連ですが、まず「早期リハ加算」が 2 段階になりました。14 日までは 75 点、それ以降



は 30 点とかなりメリハリを付けた配分になりました。早期リハの有効性が高いと評価された結果だと思います。また、「回復期リハビリテーション病棟」も大きく 3 段階になりました。ここで言語聴覚士にとって注目すべきは、2002 年に診療報酬上に「言語聴覚療法」が規定されてから、10 年かかりましたが、はじめて専従要件に「言語聴覚士」が位置づけられたことです。つまり、回復期リハ 1 を申請するためには、言語聴覚士の存在が欠かせないということです。また、回復期リハ 1 の要件には、それ以外にも ①看護師の配置基準、②リハスタッフ（PT・OT）の専従者数、③入院時の重症患者の比率、④入院時の重症患者の回復割合、⑤在宅復帰率などの引き上げが行われました。これは、「患者がより充実した体制で、より医学的処置の必要がある患者や重症な患者を受け入れ、状態の改善や在宅復帰という回復期リハ病棟の目的が達成されている場合を評価する」という意図の現れだと思います。言語聴覚士にも期待に応える動きが問われています（下表参照）。

外来リハは「改善が見込まれない場合の算定日数超の月 13 単位」が次の改定まで期間限定で残りました。つまり 2 年後には介護保険適応となり、廃止されます。2025 年に向けて様々な制度変更がなされると思います。制度という枠はありますが、患者さんや利用者さんにとって、最善の言語サービスを提供できるよう努力を積み重ねましょう。

新たな回復期リハ病棟入院料

※患者がより充実したリハを行えるよう、回復期リハ病棟入院料について、より充実した体制で、より医学的処置の必要のある患者や重症な患者を受け入れ、状態改善や在宅復帰を十分行っている場合の評価を新設する。

区分	リハ科の医師	看護・看護補助	専従 PT	専従 OT	専従 ST	社会福祉士等	入院時重症患者の比率	入院時重症患者の回復	在宅復帰率	点数
1	専任 1 名以上	看護 13:1 看護補助 30:1	3名以上	2名以上	1名以上	専任 1名以上	A項目 1点以上 15%以上 および 日常生活機能 10点以上 30%以上	30%以上 4点改善	70%以上	1900
2		看護 15:1 看護補助 30:1	2名以上	1名以上			日常生活機能 10点以上 20%以上	30%以上 3点改善	60%以上	1750
3										1600

※ 重症者回復加算は入院料に包括

平成 23 年度 学術部講演会 参加報告

「失語症の語彙訓練と教材について」

講師：草野 義尊先生

白根徳洲会病院 村上 薫

本講演会のテーマは「失語症の語彙訓練と教材について」でしたが、その内容は訓練法と教材の紹介のみに留まらず、そこへ至るまでに我々言語聴覚士が理解しておかなければならない様々な点についてもくまなく網羅された、包括的かつ詳細なものでした。

当日は我々新人からベテランの先生方まで、多数の参加者で会場はほぼ満席状態となり、皆熱心に草野先生のお話に耳を傾けていらっしゃいました。その様子からも、言語聴覚士の臨床業務において語彙訓練が如何に重要なものであるかを改めて伺い知ることができました。

当院は臨床経験の浅い言語聴覚士しかおらず、訓練内容の適正化は常に課題となっています。中でも語彙訓練は適応となる患者様の幅も広く、個々に合わせたカスタマイズの必要性を日々強く感じています。語彙訓練は失語症訓練において中核的な役割を担うものと考えられていますが、何故中核を担うのか、その理由を十分に理解せずに訓練を行えば、効果を得られないまま患者様の貴重な時間と労力を消費することになります。自明なことと思う一方、自分自身がそのようなルーチンに陥りがちであることを改めて痛感し、日々の臨床業務を反省しながら草野先生のご講演を拝聴致しました。語彙訓練の理論的な構造を再確認しその詳細を学ぶと同時に、翌日からの臨床業務にすぐに活かせるヒントを山のように頂いた、大変貴重な 2 時間でした。

「構音の評価と指導」

講師：中村 勝則先生

石和共立病院 難波 律子

第 4 回学術講演会に参加しました。きこえとことばの教室で長年ご指導されていた中村勝則先生が「構音の評価と指導」について話してくださいました。その中でも、構音は歯科にも関係し、現代っ子は噛むことが少なく、そのため歯列が小さく舌が歯列内におさまらない、結果的に舌が盛り上がり側音化構音や口蓋化構音が増えているという話がとても印象的でした。構音だけでなく、食べること・噛むことなどを含めた口腔機能の評価や訓練の必要性を改めて感じました。私は構音訓練の経験が少なく、悩みながら訓練をしていましたが、先生のお話は具体的な内容で勉強になり、すぐに臨床で活かせることばかりでした。また、吹く練習・舌の練習として、とても面白い口腔機能訓練の紹介があり、実演もしてくださいました。子どもの訓練なので“楽しく”が重要です。さっそく私の訓練でもやってみました。今後も講演で学んだことを活かし、しっかり評価して効果的な訓練、そして楽しい訓練をしていきたいと思えます。

病院紹介

ツル虎ノ門外科・リハビリテーション病院

当院は平成 14 年 7 月に山梨県都留市に急性期医療から慢性期医療まで幅広く対応する外科系総合病院として開設されました。また、平成 16 年には介護保険事業として、通所リハビリテーション「そよかぜ」とショートステイ「はなみずき」が開設されました。

現在、リハビリテーション科には理学療法士 7 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 2 名が在籍しています。対象は脳血管障害による言語障害、嚥下障害の他、廃用症候群、整形外科手術後の嚥下障害等になります。言語聴覚士は外来と入院のリハビリの他に、介護保険下においても上記 2 施設に積極的な介入をしています。



当科は平成 22 年より富士・東部地域リハビリテーション広域支援センターの事務局として、研修会や医療介護従事者対象の相談事業、リハビリテーション提供が困難な地域への講師派遣事業等も積極的に行っており、医療介護従事者及び地域住民と密接な連携を図っています。

当院はリハビリ病院の特色を生かし機能回復の他に、在宅支援も積極的に行っておりますので、郡内でのリハビリテーションを希望される患者様がいましたら、ご紹介いただければと思います。

(文責 舟越 あゆみ)

ふるさと紹介

甲州リハビリテーション病院 藤井 香織

私の出身は北海道の東部に位置する、釧路市というところです。人口は約 18 万人で道内 4 位の町です。釧路湿原は日本最大の湿原で 18,290ha の面積があります。湿原にはノロッコ号といって、時速 30Km で走る日本一遅いトロッコ列車が湿原を縦断するように走っています。タンチョウ、エゾシカやキタキツネなども多く住んでいます。私の家は湿原が近いので、昔は学校帰りなどにキタキツネに遭遇したこともありました。

食べ物では、釧路の市場ではその場で好きなものをご飯の上にかけてくれる「勝手丼」や、まりもをモチーフに作った「まりもようかん」、「ザンギ」(鳥のから揚げのこと)などが有名です。そのほかにも美味しい食べ物はたくさんありますが、ここでのご紹介は以上になります。機会がありましたら、是非釧路に行って、これらの物を食べてみて下さい。



～ちよつといい話～

甲府脳神経外科病院 小澤 彩子

「急性期病院の先生の話をかかせてもらいたい」

この記事を書くお話を頂いた時にこう言われて困ってしまいました。患者様が入院され、症状が落ち着く頃には転院してってしまうため、なかなか長期に患者様と関わることがなく“ちよつといい話”が書けるだろうかと思いついてみました。そこで今回は、私が急性期病院にいて良かったな、と思えることをご紹介します。

急性期の病院にいると残念ながら担当していた患者様が亡くなってしまふ場合があります（もちろん回復期や維持期の病院でもあることです）。一方、医師から厳しい説明を受けていた患者様が、予想に反し改善されることがあります。そんな時私たちは安堵と共に患者様の生命力を感じ「さあ、これからリハビリを一緒に頑張っていこう」と奮い立たされる思いです。一時は生死の境をさまよった方が離床し、車いすに乗れるようになり、食事が取れて、と次々にできることが増えていくのを見るのはこの仕事に携わった者の喜びであると思います。

会員Pick Up!

～ 竜王リハビリテーション病院 藤巻千春先生のこの一冊 ～

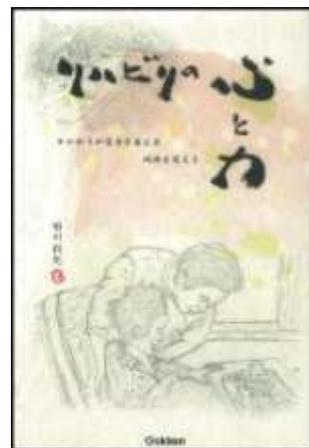
紹介本：「リハビリの心と力 ～かわりが自分を変える 地域を変える～」

稲川利光著 学研メディカル秀潤社 1600円＋税

私が皆さんに紹介したい本は、NTT 東日本関東病院の医師 稲川利光先生の本です。

先生は理学療法士から医師に転職された貴重な先生であり、また、理学療法士時代から嚥下療法に興味をもたれていたそうです。更には、急性期から在宅診療まで幅広い領域で現在も活躍されています。私も以前嚥下の研修をさせて頂き、その時感じた先生の患者様への思いやリハビリに対する深い情熱が、この本にはたくさん書かれていました。実際の診療場面や症例に加え、ご自身の家族・経歴・学生時代の話等。どこまでさらけ出してしまうんだろう・・・と読んでいるこちらが恥ずかしくなってくるような、臨場感あふれる内容です。

私はこの本を読みながら何度も涙してしまいました。それは、先生が本当に真剣に患者様と向き合っているから・・・。医療・介護とは何か。チーム医療とは何か。医療職として、言語聴覚士としての私に足りないもの、考え方。多くのヒントをいっぱい教えてくれる本です。



平成24年度山梨県言語聴覚士会 会員所属病院・施設一覧

平成24年6月現在

医療・福祉関係(28施設)

名称	所在地	電話	名称	所在地	電話
あけぼの医療福祉センター 療法科	407-0046 韮崎市旭町 上条南割 3251-1	Tel (0551)22-6111 Fax (0551)22-7890	巨摩共立病院 リハビリテーション室	400-0301 南アルプス市桃園 340	Tel (055)283-3131 Fax (055)282-5614
石和温泉病院 言語聴覚室	406-0023 笛吹市石和町八田 330-5	Tel (055)263-0111 Fax (055)263-0260	白根徳洲会病院	400-0213 南アルプス市西野 2294-2	Tel (055)284-7711 Fax (055)284-7721
石和共立病院 入院リハ室／在宅リハ室 ／小児リハ室	406-0035 笛吹市石和町広瀬 623	Tel (055)263-3131 Fax (055)263-3136	市立甲府病院 リハビリテーション科	400-0832 甲府市増坪町 366	Tel (055)244-1111 Fax (055)220-2650
一宮温泉病院 リハビリテーション室	405-0077 笛吹市一宮町坪井 1745	Tel (0553)47-3131 Fax (0553)47-3434	ツル虎ノ門外科・ リハビリテーション病院 リハビリテーション科	402-0005 都留市四日市場 188	Tel (0554)45-8861 Fax (0554)45-8876
今村耳鼻咽喉科 めまい・難聴クリニック	400-0124 甲斐市中下条 868	Tel(055)277-8741	笛吹中央病院 リハビリテーション科	406-0032 笛吹市石和町 四日市場 47-1	Tel (055)262-2185 Fax (055)262-5985
春日居リハビリテーション病院 言語療法科	406-0014 笛吹市春日居町国府 436	Tel (0553)26-4126 Fax (0553)26-4366	富士温泉病院	406-0004 笛吹市春日居町 小松 1177	Tel (0553)26-3331 Fax (0553)26-3574
恵信甲府病院 リハビリテーション科	400-0814 甲府市上阿原町 338-1	Tel (055)223-7333 Fax (055)223-7337	富士吉田市立病院 リハビリテーション技術科	403-0005 富士吉田市上吉田 6530	Tel(0555)22-4111 Fax (0555)22-6995
健康科学大学 リハビリテーションクリニック	401-0302 南都留郡富士河口湖町 小立 2487	Tel (0555)73-2800 Fax (0555)73-2844	山梨赤十字病院 リハビリテーション科	401-0301 南都留郡富士河口湖町 船津 6663-1	Tel (0555)72-2222 Fax (0555)73-1385
甲州リハビリテーション病院 病棟部 リハビリテーション室	406-0032 笛吹市石和町 四日市場 2031	Tel (055)262-3121 Fax (055)262-3727	山梨大学医学部付属病院	409-3898 中央市下河東 1110	Tel (0552)73-1111 Fax (0552)87-7356
甲府共立診療所 小児リハ	400-0034 甲府市宝 1-10-5	Tel (055)221-1000 Fax (055)221-1011	山梨福祉総研	400-0117 甲斐市西八幡 903	Tel (055)279-2510 Fax (055)279-2819
甲府共立病院 リハビリテーション部	400-0034 甲府市宝 1-9-1	Tel (055)226-3131 Fax (055)226-9715	山梨リハビリテーション病院 言語療法課	406-0004 笛吹市春日居町 小松 855	Tel (0553)26-3030 Fax (0553)26-4569
甲府城南病院 リハビリテーション部	400-0831 甲府市上町 753-1	Tel (055)241-5811 Fax (055)241-8660	湯村温泉病院 リハビリテーション科	400-0073 甲府市湯村 3-3-4	Tel (055)251-6111 Fax (055)251-3579
甲府脳神経外科病院 言語療法室	400-0805 甲府市酒折 1-16-18	Tel (055)235-0995 Fax (055)226-9521	りほく病院	407-0106 甲斐市岩森 1111	Tel (0551)28-8820 Fax (0551)28-8830
国立病院機構甲府病院 リハビリテーション科	400-8533 甲府市天神町 11-35	Tel (055)253-6131 Fax (055)251-5597	竜王リハビリテーション病院 言語聴覚室	400-0114 甲斐市万才 287	Tel (055)276-1155 Fax (055)279-1262

教育関係(3施設)

名称	所在地	電話	名称	所在地	電話
甲府市立善誘館小学校 ことばの教室	400-0862 甲府市朝気 1-2-52	Tel (055)232-3963 Fax (055)232-2403	山梨県立あけぼの支援学校	407-0046 韮崎市旭町 上条南割 3251-1	Tel(0551)22-6131 Fax(0551)22-6628
田中美郷教育研究所 ノーサイドクリニック甲府	400-0858 甲府市相生 1-3-16 まごころ補聴器内	Tel (055)233-9286 Fax (055)233-9266			

《編集後記》

新年度となり、本県士会の各局も名称の変更や新しい部の創設など、新たなスタートをきりました。

広報部も会報編集部と名称を変更し、新しい局長と新しいメンバーを迎えることとなりました。

会報編集部では、昨年度と同様に今年度も、年 3 回のニュースレターの発行を予定しております。今までのニュースレターの良い所を引き継ぎつつ、新しいものを作成していければと思います。

今年は、ロンドンオリンピックがありますが、オリンピックに負けないように会報編集部も盛り上がっていきたいと思います。

山梨県言語聴覚士会ニュース

＜発行所＞ 山梨県言語聴覚士協会

＜発行人＞ 内 山 量 史

＜編集＞ 山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集部

石和温泉病院 高橋 正和・南 曜子

石和共立病院 小川 洋美・澤中 麻由

一宮温泉病院 杉山 達也・平山 麻早美

春日居リハビリテーション病院 外間 玲香

甲州リハビリテーション病院 石原 徳子・赤池 絢

甲府共立診療所 宮里 なつき

甲府城南病院 廣瀬 由紀・脇坂 英寿

市立甲府病院 丸井 章子

湯村温泉病院 又吉 梓

＜事務局＞ 春日居リハビリテーション病院 言語療法科内

〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府 436

TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366

＜発行日＞2012年6月1日 第23刊